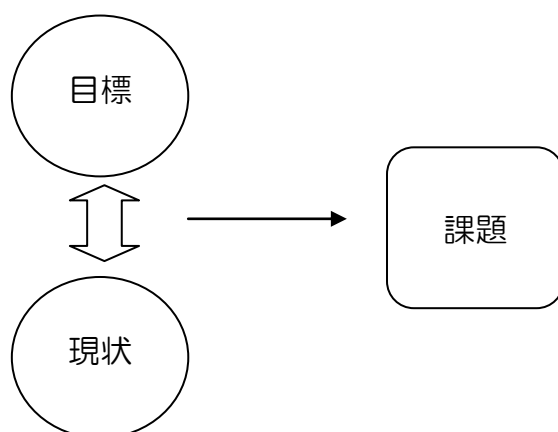


茂原市自治基本条例を考える市民の会 考え方の整理（その2）

1. 問題解決の考え方、進め方

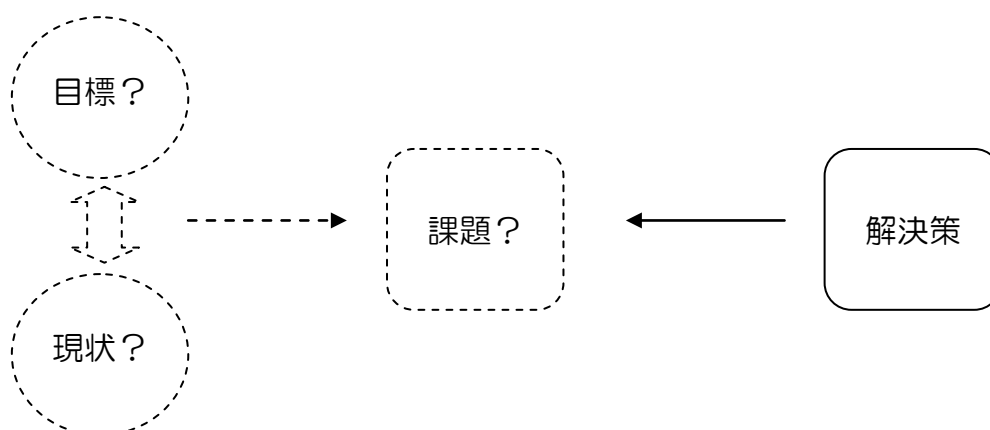
(1) 問題とは

問題とは、目標（あるべき姿、期待された姿）と現状とのギャップ。
 問題を認識するためには、「目標を明確に設定すること」と「現状を正しく把握すること」の両者が必要となる。



(2) 問題解決につながりにくい手段先行アプローチ

解決策を起点に「手段ありき」で問題をとらえてしまうと、現状を把握できず、目標を描くことができない。



(3) 問題解決の基本プロセス

① 問題の認識

- 問題を問題として認識する
- ことごとを見ながら、問題に気づくことが解決への第一歩
- まちづくりの問題は現在も発生している問題であり、すでに顕在化した問題だけでなく、現在進行中の問題や将来起こるかもしれない問題についても認識する必要がある

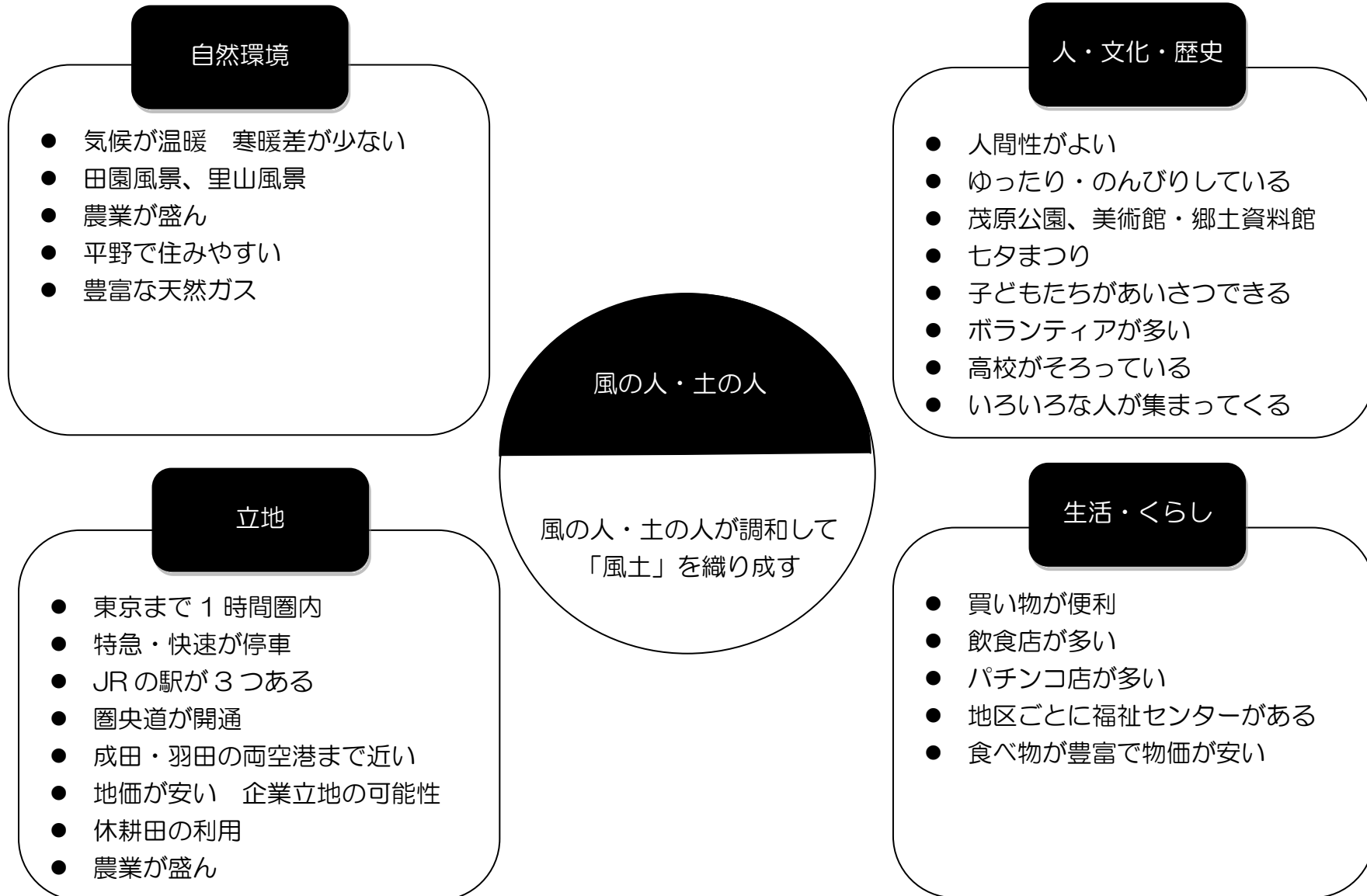
- ② 問題の特定
 - 現状と目標の間のギャップを明確にして特定する
 - 「現状と目標の間のギャップ」としてとらえることで、問題がより明確化される
 - ①で主観的な視点から得られた問題について、より客観的な視点から問題を定義する
 - ③ 原因の追求
 - 問題の発生要因の抽出と原因の特定
 - 問題の発生要因を探り、原因を特定する
 - ②で特定した問題の原因として考えられることは何か、とくに重要な原因は何かについて検討する
 - ④ 対策の立案
 - 原因を取り除くための対策（問題解決シナリオ）を立てる
 - 現状と目標の間のギャップを埋めるための方策を具体化・詳細化する
 - 費用対効果、実現性、迅速性などを基準に、対策案を評価する
 - ⑤ 実行計画の策定
 - 問題対策の実行計画を策定し、進め方を具体化する
 - 改善を実現するための具体策、実施手順、体制、進ちょく状況の評価確認プロセスなどを決定する
 - ⑥ 問題解決の実施
 - 問題解決活動の実施、問題の解決
 - 実行計画に基づく活動を実施する
 - 活動のベースとなる目標や計画を繰り返し強調し、ぶれない活動を進める
 - ⑦ 成果の確認と継続 活動成果の評価と継続
 - 改善活動による成果の確認と新たに見つかった課題の継続的な改善を行う
 - 改善が実現しなかった場合は、反省点を明確にし、次につなげる
 - 成果の実現は終着点ではなく次へのステップ。常により良い状態を目指す
- (4) グループワーク（3月7日）

委員相互間のまちづくりに関する考え、自治基本条例についてのイメージを共有するため、グループワークを行いたいと思います。

【グループワークのテーマ】

- ・どんな茂原市にしたいか
- ・自治基本条例に期待するもの

(5) グループワーク（2月16日） 茂原市の魅力を伝えるプレゼンテーション まとめ



(6) (参考資料) 目標の策定 ワークシート

